

## ● 第1章 小中一貫教育を実施する学校施設の整備例 …… 27

## 施設一体型

- 福島県 郡山市  
1. 湖南小中学校 …… 29
- 茨城県 つくば市  
2. 春日学園 …… 33
- 東京都 品川区  
3. 荏原平塚学園 …… 37
- 神奈川県 川崎市  
4. はるひ野小中学校 …… 41
- 愛知県 飛島村  
5. 飛島学園 …… 45
- 京都府 京都市  
6. 京都大原学院 …… 49
- 国立大学法人 京都教育大学  
7. 京都教育大学附属  
京都小中学校 …… 53
- 広島県 府中市  
8. 府中学園 …… 57
- 長崎県 五島市  
9. 奈留小中学校 …… 61

## 施設分離型

- 京都府 京都市  
10. 東山泉小中学校 …… 65
- 広島県 府中市  
11. 府南学園 …… 67

## ● 第2章 先行事例における計画・設計の事例間比較 …… 69

# 第1章 小中一貫教育を実施する学校施設の整備例

施設形態ごとに計11校の学校施設の先行事例を紹介し、第1部第3章第2で示した「小中一貫教育に適した学校施設の計画・設計における留意事項」について、その具体的内容を解説する。

	施設一体型									施設分離型	
	1 湖南小中学校	2 春日学園	3 荏原平塚学園	4 はるひ野小中学校	5 飛鳥学園	6 京都大原学院	7 京都教育大学附属 京都小中学校	8 府中学園	9 奈留小中学校	10 東山泉小中学校	11 府南学園
掲載ページ	P.29	P.33	P.37	P.41	P.45	P.49	P.53	P.57	P.61	P.65	P.67
開校年	平成17年	平成24年	平成22年	平成20年	平成22年	平成21年	平成22年	平成20年	平成20年	平成26年	平成20年
児童生徒数※1 (特別支援学級・児童生徒数)	205人 (0人)	1451人 (13人)	537人 (0人)	1364人 (24人)	374人 (3人)	76人 (2人)	861人 (35人)	991人 (17人)	85人 (1人)	685人 (10人)	1302人 (35人)
普通学級数※1 (特別支援学級数)	9学級 (0学級)	43学級 (4学級)	19学級 (0学級)	41学級 (9学級)	15学級 (3学級)	9学級 (2学級)	27学級 (6学級)	30学級 (4学級)	7学級 (1学級)	23学級 (3学級)	48学級 (13学級)
学年段階の区切り	6-3	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	4-3-2	6-3	4-3-2	5-4	6-3
整備手法※2	増築・改修	新築	新築	新築 (増築・改修)	新築	増築・改修	増築・改修	新築	新築	新築/ 増築・改修	改修
<b>計画・設計のポイント</b> (先行事例の主な特徴と計画・設計における留意事項【第1部第3章第2を参照】との関係)											
一貫性確保への対応 教育活動の	小中一貫した教育課程 に対応した施設環境	●			●		●		●	●	
	学年段階の区切りに対応 した空間構成、施設機能			●	●	●		●	●		●
	異学年交流スペース の充実	●	●	●	●	●		●	●	●	
	小中一貫教育の取組の 高度化に資する共同利用					●			●		
学校運営の 一貫性確保への対応		●		●		●					●
小中一貫教育の実施に 適した安全性の確保	●		●					●			
既存学校施設の有効活用						●	●			●	
地域と共にある 学校施設の整備	●		●	●		●				●	

## 〈第2部内の表記について〉

- ・事例に使用する各校名称は愛称を用いている。
- ・開校年は小中一貫教育、小中連携教育の開始年を示す。
- ・児童生徒数、学級数等の情報は別途記載がない限り平成26年度時点のものとする。
- ・学年や施設設備の名称は便宜上統一した表記を採用している。

※1 児童生徒数および学級数は小・中学校全体を示している。

※2 整備手法は開校時点のものを示している。(はるひ野小中学校は児童生徒数の増加により、平成26年に校舎を増築・改修している。)

# 第1章の構成

## ■ 学校概要

児童生徒数や施設規模等、学校の基礎データを示しています。

## ■ 計画・設計のポイント

各事例の主な計画・設計上の留意事項を示しています。各ポイントの具体的な整備例は、次のページで紹介しています。(P.27の表にある『計画・設計のポイント』に対応しています。)

## ■ 運営状況

各学年での授業方法、運営方式、授業時間等を示しています。

## ■ 施設利用状況

各室の数や配置、共同利用の状況を示しています。

## ■ 配置図・平面図

各学年の普通教室や特別教室の配置、昇降口の位置、異学年交流や地域交流が行われるエリア等を図示し、校舎のゾーニング計画を分かりやすく示しています。

## ■ 具体的な整備例

前ページの『計画・設計のポイント』に基づき、図表や写真を用いて整備内容を分かりやすく示しています。

# 1. 湖南小中学校



福島県 郡山市立湖南小学校・湖南中学校



校舎外観

施設一体型事例

## 背景

湖南地区は少子・高齢化が進み、小学校の複式学級が年々増加傾向にあった。平成11年度に地域住民を中心として「湖南地区小学校の統合を促進する会」が発足。市に要望書を提出するなど、小学校の統合に向けた推進活動を実施した。

地区内の5つの小学校を「湖南小学校」として統合し、既存の中学校（湖南中）校舎の隣に小学校校舎を増築し、平成17年4月、小中一貫教育を開始した。

施設分離型事例

事例間比較

		学 年									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
運営状況	学年段階の区切り	小学部						中学部			
	授業方法	学級担任制						教科担任制			
	運営方式	特別教室型									
	授業時間	45分									
	校長	校長1人									
	副校長・教頭	小学校教頭1人						中学校教頭1人			
	部活動	なし						部活動			
	PTA	PTA組織を一本化									
	施設利用状況	ゾーニング	1階			2階			2階		1階
		校長室	1階								
職員室		1階									
保健室		1階						1階			
特別支援学級		なし									
音楽室		1階									
家庭科室		2階									
図書室		1階						1階			
ランチルーム		2階(180席)									
昇降口		1階									
体育館		1階(アリーナ)						1階(アリーナ)			
グラウンド		プレイコート				グラウンド					
プール		1階(屋内)						1階(屋外)			
給食室	1階(単独校方式)										

## 学校概要

学校規模	[小]普通:6学級(133人) [中]普通:3学級(72人)
学年段階の区切り	6-3
開校年	平成17年(2005年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	42,633㎡
延床面積	8,346㎡
用途地域	指定なし

## 教育上の特色

「ともに生き 未来を創る たくましい湖南の子」を教育目標とし、地域に開かれた学校づくり、郷土学習の充実等地域連携の強化や恵まれた自然を活かした環境学習の充実を行うと共に、9年間を一貫させた教育課程の編成を行う。全国に先駆けて小中一貫教育を開始したため、教員の異動や他校からの転出入を配慮し、6-3制を維持して小中一貫とした。低学年は、学級担任制を基本とし、小学3~4年生から緩やかに教科担任制を導入し、多くの教科で小中相互の乗り入れ授業を行っている。

また中学校教員による小学5~6年生への英語表現科授業に加え、外国人教師による英語表現科授業を小学1年生から実施している。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

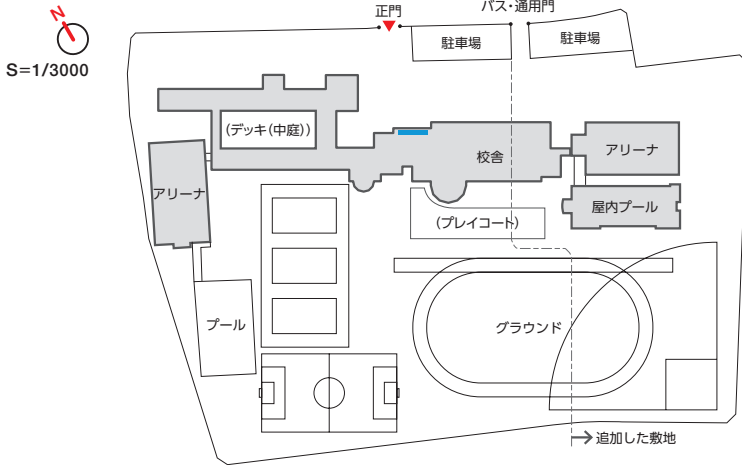
## 計画・設計のポイント

1. 異学年交流スペースの充実
2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保
3. 地域と共にある学校施設の整備

## 施設上の特色

- 小学校の新校舎を既存の中学校の校舎と一体化させて増築。校舎と校庭は一体化したが、小学校の体育館、プールは新たに設置。遊具施設は校庭の校舎付近に置き、小学生が安心して遊べる天然芝生のプレイコートも設置。
- 管理諸室や特別教室は共有しており、管理諸室は校舎中央に、特別教室は利用頻度の高い中学校側に多く配置されている。増築した小学校棟には、多目的ホールやランチルーム、図書室等の小中の交流を促進する場所を多く設けている。
- 小学校校舎の増築には地元の杉材を多く使用。語り部の部屋や郷土資料室等、学校内に地域のコミュニティ拠点としての交流スペースを設けている。

## 配置図

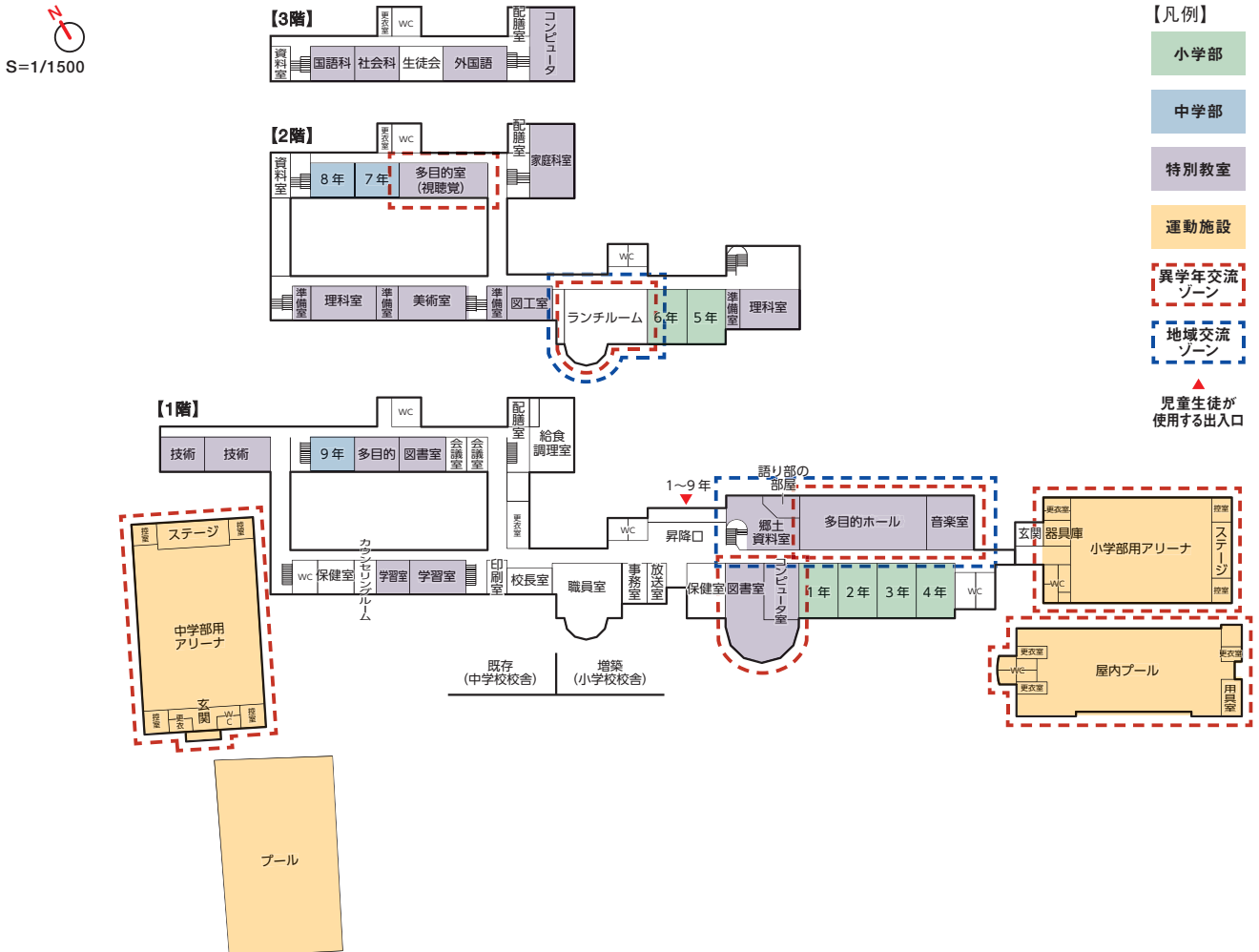


### 【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

校地計画		従来からの中学校敷地 +新しい敷地			
面積	グラウンド	19,108m <sup>2</sup>			
	校舎	小	7,274m <sup>2</sup>	中	11,834m <sup>2</sup>
		校舎	6,566m <sup>2</sup>		
体育館	1,780m <sup>2</sup>				
	小	922m <sup>2</sup>	中	858m <sup>2</sup>	

## 平面図



施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 1. 異学年交流スペースの充実

### 多目的ホール



広い空間と階段状の椅子を活かし、各教科の成果発表など、児童生徒のプレゼンテーション能力育成の場として利用されている。また、隣接する音楽室と一体的に使用することもでき、小中合同の始業式や終業式、吹奏楽部等の部活動にも使用している。

### ランチルーム



校舎中央に配置されたランチルームでは、児童生徒が共に準備をし食事をとることで、自然なコミュニケーションが生まれる交流スペースとなっている。

### 図書室



小中で共同利用している図書室は、校舎中央に配置されている。また、昇降口に近く、スクールバスの待ち時間を過ごす場にもなっている。児童生徒が待ち時間にも、本を読んだり友人と話したり、それぞれ充実した時間を過ごせるようになっている。

## 2. 小中一貫教育の実施に適した安全性の確保

### 運動施設



湖南地区は多雪地域に位置し、冬季はグラウンドが使用できなくなるため、利用が集中しないように、新たに体育館を整備している。また寒冷のため、夏季の屋外プール使用期間が短いことや児童生徒の体格差等も配慮し、屋内プールの整備も行っている。

### プレイコート



低学年の児童が校庭で安心して遊べるように校舎付近に遊具や、天然芝生のプレイコートを整備している。

施設一体型事例

施設分離型事例

## 3. 地域と共にある学校施設の整備

### 語り部の部屋



### 郷土資料室



和室で囲炉裏のある語り部の部屋では地域の住民を招き民話学習や茶道教室等を行っている。

郷土資料室は、郷土が生んだ文学者や芸術家等の作品コーナーを設け、総合的な学習の時間などで、郷土の偉人についての学習を行っている。

事例間比較

## 校長の視点から

こやま たけゆき  
湖南小中学校 校長 小山 健幸

本校が目指す小中一貫教育重点事項の一つに、「表現力の育成」があげられます。学習の成果を伝えあう場や、発表する機会を多く教育活動に取り入れたいという理由から、291㎡ある多目的ホールを設置しました。多目的ホールでは、児童生徒同士の発表会、始業式、終業式や地域の方々を招いた様々な行事等を行っています。さらに、地域人材を活用した表現力育成を目指して、民話学習ができる語り部の部屋や郷土の偉人を紹介した郷土資料室が設けられ、「ふるさと湖南誇りを胸に」の育成に役立っています。

# 2. 春日学園

茨城県 つくば市立春日小学校・春日中学校



校舎外観

## 背景

つくばエクスプレスの開通に伴い、研究学園都市駅周辺の住宅開発が進み、人口が急増。このため、施設一体型の小中一貫校の新設を計画、平成24年4月に開校した。

春日学園は、つくば市で初めての施設一体型校である。つくば市では、平成24年度から、市内の全小・中学校53校（15学園）において、小中一貫教育を本格実施している。

## 学校概要

学校規模	[小]普通:34学級(1163人) 特別支援:2学級(11人) [中]普通:9学級(288人) 特別支援:2学級(2人)
学年段階の区切り	4-3-2
開校年	平成24年(2012年)
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
校地面積	46,628㎡
延床面積	14,718㎡
用途地域	第一種中高層住居専用地域

## 教育上の特色

「未来を拓き、社会に貢献できる人材の育成」を教育目標とし、9年間の継続的な学びを通して「論理的に考える力」「人と豊かにかかわる力」を育てることを重点にしている。

5年生から部分的に教科担任制を導入するなど、4-3-2制を取り入れた柔軟な区切りを設けると共に、「考える時間」「つくばスタイル科」等、9年間の学びの連続性を活かしたカリキュラムを構築している。

また、兼務発令による中学校数学教員の小学算数授業、小・中学校教員による音楽のT・T授業や、大学や研究機関との連携によるロボットの授業等、多様で実践的な活動を行っている。

## 学校運営(マネジメント体制)

1人の校長が小・中学校長を兼務する。教育課程の編成や生徒指導の中心となる教諭や養護教諭、事務職員は兼務発令されており、小中相互の乗り入れ授業の実施、教務関係、生徒指導関係、学校事務は共同実施している。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

	学年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
学年段階の区切り	前期			中期			後期		
授業方法	学級担任制				教科担任制				
運営方式	特別教室型								
授業時間	45分				50分				
校長	校長1人								
副校長・教頭	小学校教頭1人				中学校教頭1人				
部活動	なし				部活動				
PTA	PTA組織を一本化								
ゾーニング	1階	2階	1階	3階	2階	3階			
校長室	特別教室棟1階								
職員室	特別教室棟1階(校務センター)								
保健室	特別教室棟1階								
特別支援学級	特別教室棟1階								
音楽室	特別教室棟1階			特別教室棟3階					
家庭科室	なし			特別教室棟3階					
図書室	特別教室棟2階								
ランチルーム	なし								
昇降口	普通教室棟1階								
体育館	1階								
グラウンド	サブグラウンド				グラウンド				
プール	1階								
給食室	特別教室棟1~3階(給食センター方式)								



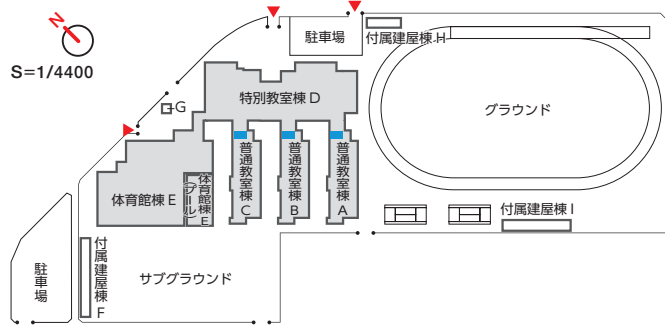
### 計画・設計のポイント

- 1.異学年交流スペースの充実
- 2.小中一貫した教育課程に対応した施設環境
- 3.学校運営の一貫性確保への対応

### 施設上の特色

- 普通教室棟は、体格差や発達段階、学年ごとの授業運営等に配慮し分棟形式としている。各普通教室棟（3棟）、特別教室棟、体育館棟は全て南北、東西方向に抜けるスクールアベニュー及び2階・3階の渡り廊下によってつながれており、児童生徒・教職員の交流を促進するとともに、大規模校でありながらスムーズな生活動線を確保している。
- 特別教室や管理諸室は共用としており、特別教室棟は階によって科学・芸術・メディアといった分野ごとにまとめられて配置している。管理諸室は、スクールアベニューや校門、各棟出入口を見通せる位置に設けている。

### 配置図

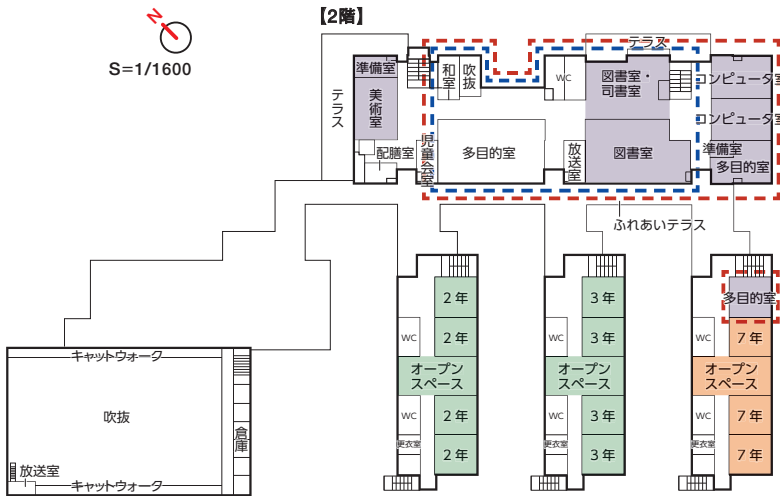


#### 【凡例】

- 昇降口
- ▲ 児童生徒が使用する門

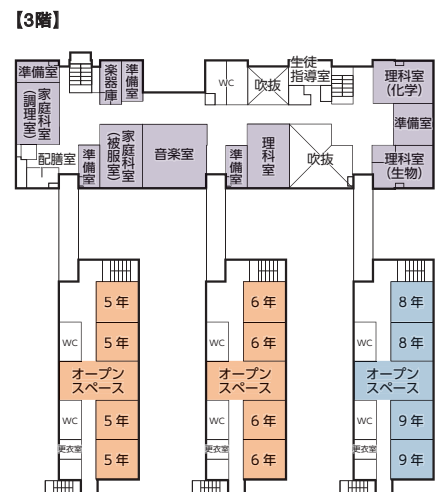
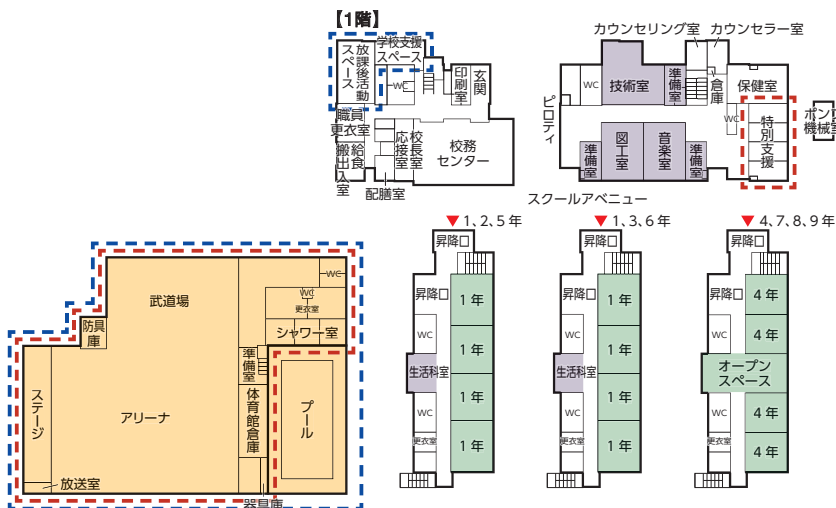
校地計画		新しい敷地	
面積	グラウンド	26,194m <sup>2</sup>	
		小 4,046m <sup>2</sup>	中 22,148m <sup>2</sup>
	校舎	12,691m <sup>2</sup>	
		小 7,520m <sup>2</sup>	中 5,171m <sup>2</sup>
体育館	2,027m <sup>2</sup>		
		小 1,006m <sup>2</sup>	中 1,021m <sup>2</sup>

### 平面図



#### 【凡例】

- 前期
- 中期
- 後期
- 特別教室
- 運動施設
- 異学年交流ゾーン
- 地域交流ゾーン
- 児童生徒が使用する出入口



※平成25年度時点のゾーニングを示す。児童生徒数の増加により計画時のゾーニングとは異なる。

※つくば市においては、春日学園の児童生徒数の増加に伴い、施設一体型小中一貫校となる分離新設校の整備を計画している(平成30年4月開校予定)。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

# 1. 異学年交流スペースの充実

## ■ スクールアベニュー・渡り廊下



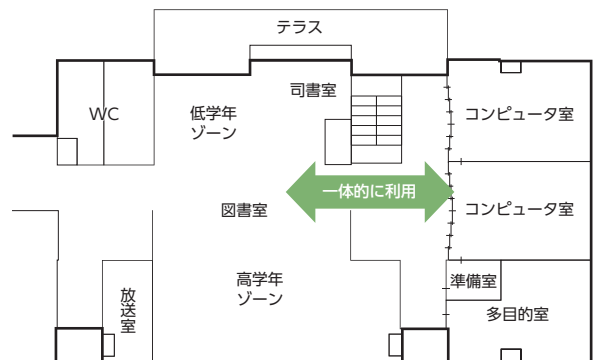
敷地の東西・南北および各棟をつなぐスクールアベニューと、各棟の2・3階をつなぐ渡り廊下は、分散している各棟をつなぐ動線としてだけでなく、コミュニケーションを促進する役割も果たしている。

## ■ 図書室



図書室は低学年と高学年でゾーンが設けられてはいるが、全体的には間仕切りがなくオープンなつくりとなっており、異学年の自然な交流ができる空間となっている。低学年ゾーンの閲覧スペースには、木よりも柔らかいコルク床を採用している。高学年ゾーンでは落ち着いて読書や調べ物学習に取り組めるように机や本棚を配置している。

## ■ コンピュータ室



コンピュータ室は図書室と同じフロアに配しメディアゾーンとして一体的な利用も可能となっている。家具が分散配置型となっており、交流授業で上級学年が指導に参加する際にも適した空間となっている。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較

## 2. 小中一貫した教育課程に対応した施設環境

### 理科室



理科室は小学生用、中学生用とも3階に集め、小学生用は、実験時に全員が黒板を向けるように半楕円形の教室となっている。

### 音楽室



5年生から9年生が利用する3階の音楽室はほかの特別教室より広く面積をとっており、ゆとりあるスペースを活かした創作・表現活動を展開している。

### つくばスタイル科

「つくばスタイル科」を中心とする9年間の連続した活動の中で、つくば市全体で取り組まれている「つくば次世代型スキル」の育成を目指している。つくばスタイル科では近隣の大学や研究機関等と連携し、バランスのとれた人間性と国際的な視点を兼ね備えたつくば市民の育成をテーマに様々な活動に取り組んでいる。



電子黒板を活用したプレゼンテーション ロボットを活用したテレビ会議

## 3. 学校運営の一貫性確保への対応

### 校務センター



スクールアベニューに面し、窓から学内の様子が見える



ICT機器を活かした職員会議

職員室、事務室が統合された校務センターは、スクールアベニューに面し、校門や各棟の出入口を見通すことができる位置にあり、児童生徒の様子を見守りやすい。また、積極的なICT機器の導入が図られており、広く人数の多い校務センターにおいても、ICT機器を活かし職員間の情報共有・意思統一を図っている。

### 校長の視点から

かたおか きよし  
春日学園 校長 片岡 浄

本学園では、小1～中3までの子供が、同じ学舎で学んでいます。また、9年間の連続した学びを保障し、人と豊かに関わる力の育成に努めています。その校舎の特長は、明るくオープンな雰囲気のある教室、読書に集中することができる学校図書館、発達段階を配慮した特別教室等、学年や学級の垣根を越え、人間関係を構築しやすい環境構成になっています。子供や保護者からの評判も極めてよいです。これからも恵まれた施設で、異学年交流や小中の教員による交換授業等特色ある教育の推進に努めていきたいと考えています。

施設一体型事例

施設分離型事例

事例間比較